平成 28 年度「土砂災害防止に関する絵画・ 作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「土砂災害の意しきをもっと身近に」

新潟県 長岡市立青葉台小学校 4年 宮下（みやした） 月希（るい）

毎年、日本・世界の各地で土砂災害が起きています。テレビ、新聞の映像を見ると、むざんな景色に、しょうげきを受けます。

日本の土砂災害ニュースを今年もたくさん見ました。私の住む県でも、つりをしている人が土砂災害にあい、車はまきこまれたけれど、そばにいなかったおかげで人は助かったと新聞で見ました。身近でもある土砂災害の怖いニュースです。日本の災害ではありませんが、私は去年の年末にあった中国の土砂災害のことがとても頭に残っています。それは、災害が起きて流れてきた土砂にうもれてしまった人がいました。人は、72時間うもれたままでいると、亡くなってしまう可能性がとても大きいそうです。そんな状況の中、19人もの人が、うまった建物のすき間から生きて見つかったと報道されていました。その中の生きて見つかった人の中に、ひまわりの種を食べて生きのびたこと、種であっても食物となり、命を守れたと言う事、キセキ的にあった幸運だった事、全てにしょうげきを受けました。その時、まだ70人も行方不明だったとニュースを見て、土砂のすごさが、頭に残っています。

毎年どこかで起きている土砂災害。そのたびに、おそろしさと、怖さを考えます。人ごとだと思っていても、いつ自分の身に起きるか、どこでまきこまれるか予想もつかないのが土砂災害。私のお母さんがよく、

「たかが土。されど土。土砂災害は怖いよね。」

と言うので、災害の怖さを見るたびに考えます。いっしゅんにして土が流れこみ、にげる時間さえうばう土砂。さけたくてもさけられないことを、どう考えて生活するのかが、ひじょうに大切なことです。

自分の身には、ありえないと思っていても絶対に土砂災害にあわない、起きないは、ありえません。もしもの事を考えて準備をしていくことが、とても大切なことだと思います。いつでもにげられるように、ひなんグッズを家に用意しておくことや、ラジオはとても必要だと思います。自分には関係ないことだと思い、災害の用意をしている人はまだ少ないと思います。自分には関係ないことだからとは考えずに、『もし。いざ』の災害が自分の身に起こったら、どう行動すべきなのか、前もって考える事で、とても意しきが高まります。そして土砂の事を考えるようになるので、もしもの時のことを意しきした生活が、何よりも大切だと思います。

山がある限り、川がある限り、災害は、いつでも起きる可能性があることです。自分の身で経験しないと、なかなか行動にうつせない人が多いです。でも、土砂災害のことを、しっかり聞いたりすれば、もっともっとたくさんの人に考えてもらえることだと私は思います。なってからでは、命にかかることなので、おそいのです。じっさいに土砂にあった方が言っていました。

「いざと言う時は、パニックになるし、頭の中も空っぽになってします。それでも、知しきや準備があったり、そなえておこうの意しきがあったら、助かる可能性も高いので、学習することは大切だよ。」

と教えてもらいました。

私は、それから土砂のニュースや本やインターネットで土砂災害を気にするようになりました。そして家でも、ひなんセットの用意や土砂災害の心がまえをして生活するようになりました。

まだ考えていない人は、ぜひ早めの心がまえをそなえをしてほしいと強く心から思います。土砂災害は、思っている以上に怖いとみんなに思ってほしいです。